

ジュネーブ稻門会

Geneva

ジュネーブ稻門会Webサイト
http://wasedageneva.blog40.fc2.com



会長メッセージ

あまり知られてはいないかもしれません
が、16世紀のジュネーブはキリスト教宗教改
革・プロテスタントの指導者カルバンによって共和
政治が行われた町でもあります。

大学在学中、川勝平太先生が経済英書の授業でドイツの社会学者マックス・ウェーバーの著書『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を挙げ、カルヴァニズムの教えにある合理性、職務遂行の精神が近代的な資本主義の精神に適合していたとお話をしてくださいました。カルバンはジュネーブ市に厳しい規則を要求しましたが、一方、商工業に深い関心を持ちカルバンのもとで禁欲的労働に励んだジュネーブ市民は、その後、町を世界の時計製造の中心地として発展させていくことになります。

ジュネーブは美しい自然、国際都市、そして宗教改革の町とさまざまな顔を持っています。ジュネーブ稻門会一同、校友の皆様のご来訪を心よりお待ちしております。

榎本道子
(1987年政経、国連欧州経済委員会・エコノミスト)

欧州連合稻門会の実現を!

これまで欧州内の各稻門会の交流は皆無でした。慶應の三田会では互いに盛んに交流し、数年おきに塾長を招待して欧州連合三田会まで開催しているとのこと。慶應にできて早稲田にできないわけがない!と、欧州の各稻門会の横のつながりを構築すべく連絡を取り合い始めました。

研究員としてフランス・パリに2度(計3年半)の滞在経験をお持ちの鎌田総長もご招待して欧州連合稻門会を開催できたらと企んでおります。

欧州の各稻門会の皆様(+総長はじめ大学の関係者の皆様)、どうぞよろしくお願いします!(水谷努)

ジュネーブ 稻門会の 人びと

People



イキス公園の花時計

会員からのメッセージ 「モンブランの西北から」

●大きな看板もなく、ジュネーブの街中にひつそりと存在しているのが富裕層の資産管理、運用に特化してきた老舗のプライベートバンクです。スイスは欧州の中央に位置しながらも、各国とは一線を画し、独自の通貨や金融制度を維持し、静かにそして強かに生き延びてきました。顧客となるには数億円からとハードルは決して低くありませんが、資産運用のみならず、会社経営、医療、子女教育などトータルなお付き合いを約束してくれます。皆様も是非一度その門を叩いてみてはいかがでしょうか?

村田洋一(1984年政経、プライベートバンカー)

●早稲田の同窓と聞いただけで瞬時に親近感を持ち打ち解けてしまう。早稲田のつながりはジュネーブを飛び出し欧州全体へと広がっています。ヨーロッパの中心に位置し少人数で小回りの利くジュネーブだからこそできる業! さまざまな業種・世代の校友と知り合いになり、卒業後の方が何倍も楽しんでいます。早稲田に入学して本当に良かった!

松尾寿美子(1988年商学、通訳・翻訳)

●今回2回目の滞在となるジュネーブで、私にとっての目標は「国際機関以外のコミュニティーとの付き合いを増やすこと」。稻門会に入会して、ジュネーブ近郊で生活されているさまざまな分野の方々と、早大卒という共通点をきっかけに交流の輪が広がり、「集り散じて人は変われば、仰ぐは同じき理想の光」を体現しています。

上月光(1996年政経、国連難民高等弁務官事務所[UNHCR])

●日本では卒業後も早稲田と応援部にどっぷり浸かった生活を送っていたため、赴任中は早稲田と縁の切れた生活を送ることになるかと落ち込んでいたところ……、ジュネーブにも稻門会はありました! 神宮等で生の応援はできませんが、稻門会の皆さんとアルプスを越えて早稲田にエールを送ります。Hurray Hurray WASEDA!(ヨーデル調で)

水谷努
(2000年法学、在ジュネーブ日本政府代表部、応援部OB)

ジュネーブ 稻門会に ついて

About

ジュネーブおよび近隣のスイス、フ

ランスに在住する早稲田大学卒

業生の親睦を深めるため、2000年に設立され

た。現在の会員数

は十数人。ジュネ

ーブという場所柄か

ら、国連機関や政

府機関で働く会員

が半数以上を占め

ている。

少人数ならでは

のアットホームな雰
囲気を大切にし、通常の会合だけでなく、家族同伴での懇親会(会員宅でのバーベキュー、ピクニック)も定期的に開催。昨年末にはジュネーブ三田会と初めての合同懇親会を開催し、今後も交流を深めていくことを誓い合った。

帰国者による東京支部も設立の予定。



ジュネーブ三田会との合同懇親会

ジュネーブ の魅力

Charms

世界は5つの大陸に分かれてい
る。ヨーロッパ、アジア、アメリカ、ア

フリカ、そしてジュネーブ——18世紀末から国
際政治の舞台で活躍したフランス外相のタ
レーランはジュネーブをこう評した。当時からど
こにも属さない中立性と国際性、そして他の大

陸と並ぶほ
どの存在感
を兼ね備え
ていたのだ
ろうか。やが
てモンブラン
国際連合欧州本部

を望むレマン湖の北岸に国際連盟本部(現在
は国際連合欧州本部)、世界貿易機関(WTO)
、世界保健機関(WHO)などの国際機関
が次々と集まるようになり、現在も「世界の会議



レマン湖の大噴水「ジェード」。高さは140mに達する

場」として機能している。一方、湖の南岸には
長い伝統を持つプライベートバンクが集まり、世
界の富裕層が街を闊歩する。

もっとも、ジュネーブの人口は20万人足らずで、日本の地方都市よりも小ぶり。国際都市、金融都市というイメージとは裏腹に、非常に緑が多く、ごみごみした大都会の雰囲気は全くない。車で15分も走れば、牛や馬、羊に出会える。目の前に広がるレマン湖はもちろん、ゴルフ場やスキー場も30分程度と近く、レジャーにはもってこい。ジュネーブ稻門会のメンバーは不思議な魅力を持つ5つ目の「大陸」で、公私ともに生活を楽しんでいる。



モンブラン。国際連合欧州本部から